

伊方町へ移住する前は、どのようなお仕事、生活をしていましたか？

三重県の鈴鹿市から移住しました。田舎とも都会ともいえぬ地域です。移住直前までは専業主婦という名を語った、無職でした。それまでは、工場でのライン作業や、運送会社での事務職などをしていました。協力隊と聞くと、特殊スキルがある方になるもの！というようなイメージがありますが、残念ながら秀でたスキルはありません。食べることくらいかな。



伊方町に移住を決めたきっかけは何ですか？

夫婦で農業をしたいと思ったことが第一のきっかけです。移住就農できる地域を探していて、東京のふるさと回帰支援センターへ相談に行きました。全国各地の移住情報があり、いろんな地域の移住就農についてお話を聞きました。愛媛県の相談員さんからお話を聞き、みかん山から見える海の写真を見た時に、「ここだ！」と思い、その後、人生で初めて愛媛県を訪れました。農業体験で伊方町を訪れたことを機に、「ここで柑橘就農したいな」と感じ、伊方町に移住を決めました。愛媛県の中でもなぜ伊方町を選んだか？というのは、農業体験で出会った伊方町の人たちの

六次産業化については、女性農家さんから郷土料理を教えるもったり、一緒に商品開発にも挑戦しています。高校生や小学生への食の伝承ということや、食育活動も行いました。町内の女性は、とてもパワフルで、最初は圧倒されましたが、温かくて楽しい方ばかりです。



私は得意分野がないので（笑）みなさんと一緒に活動して、いろんなことを教えてもらいながら、私に加わることで、新しいことに挑戦するきっかけづくりができればと考えながら、活動しています。



今後、移住を考えておられる方に一言。

「人柄」が大きかったと思います。

「今日は作業を半分にして、話しましようや！」と、体験途中にお茶をしながら、ここでの暮らしについてや地域の不便さなど、お話ししてくださった時に、人間味豊かで素敵な方たちだなあと感じたことを覚えています。



現在、行っている仕事の内容を教えてください。

農業振興の担当として活動しています。主に、有害鳥獣対策や、六次産業化について取り組んでいます。柑橘園地のイノシシ被害は農家にとって大問題です。有害鳥獣対策では、防護柵の設置や有効な捕獲について集落の方と一緒に取り組んでいます。



農業という野菜や水稻を思い浮かべがちですが、伊方町の農業は柑橘がほとんどです。町内の就農へ向けての制度ですが、協力隊だけではなく、農業研修が受けられる制度もあります。

現に、大久保家は、私が協力隊員として、旦那は農業研修生として、と、それぞれの制度を利用して就農に向かって進んできました。移住をする前に、自分がどんなことをしたくて、どんな制度を利用して、将来こんな風に定住したい！と計画を立てること、そして実行に移すことが大切だと思います。



また、農業に限らず、移住について気になる地域があれば、まずはその地域へ足を運んでもらいたいです。ネットや文書などの情報だけでは得られない、自分の目で見て感じるものがあると思います。